

HOME > ニュース一覧 > > 加計呂麻でワニ捕獲相次ぐ

加計呂麻でワニ捕獲相次ぐ

2017年11月04日

いいね！ 213 シェアする ポスト



瀬相で捕獲されたワニ（左）と於斉で見つかったワニ（提供写真）

瀬戸内町加計呂麻島で10月31日と今日3日、小型のワニ2匹が相次いで見つかった。同町では43年前にも生きたワニが捕獲された記録があり、専門家は「流木などに乗って東南アジアから流れてきたのでは」と推測。思わぬ「珍客」に住民らは驚いている。

◆東南アジアから漂着？

同島於斉集落の路上で3日捕獲されたワニは体長約60センチ。午後0時半ごろに車で通りがかった男性が見つけ、警察に通報した。近くに住む仁科博さん（68）は「弱っていたが棒を出すと威嚇してきた。出た理由が分からないので心配」と話した。

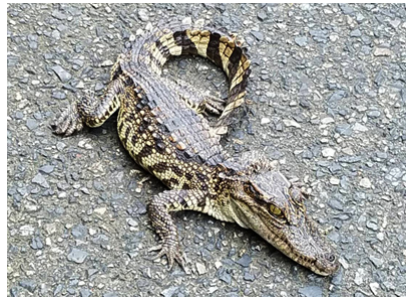
瀬相の海岸で見つかった1匹目のワニは体長約60センチ、重さ580グラム。どちらもハブ捕獲用の箱に入れられ、町内の施設に持ち込まれた。於斉のワニは運搬中に死亡した。

岡山理科大学生物地球学部の亀崎直樹教授は、背中のとげや口の形からイリエワニかシャムワニの子どもと推測。海沿いに生息するイリエワニは海を泳ぐこともあると指摘、「フィリピンなどから海を渡ってきたとしても不思議はない。DNAなど詳しく調査して記録に残してほしい」と語った。

瀬戸内町では1974（昭和49）年10月13日にワニの捕獲例がある。記録によると体長85センチ、重さ1・5キログラムで、しばらく飼育していたが水温調節ヒーターに噛み付いて感電死したという。同町の郷土資料館にはく製が展示されている。

幕末近い1850年ごろの奄美大島の様子を描いた名越佐源太（薩摩藩士）の「南島雑話」にも、奄美市名瀬住用町でワニが捕獲され、住民らが食べたという話が記されている。「ウミガメの味に似ている」らしい。

町側によると、3日現在、ワニの処遇は決まっていない。異例の事態とあつて週明けに行政間で協議を行い、対応が決まるとみられる。



いいね！ 213 シェアする ポスト

< ベイスターズ秋季キャンプ始まる 「西郷どん」テーマに奄美図書館講座 >

記事を検索

週間アクセスランキング

- 2島計100人が参
1 定し実動訓練 徳之
- 音楽や踊り、飲食楽
2 らまつり 龍郷町
- タンカンシーズン到
3 式、龍郷町で J A
本部
- 旬のタンカン詰め放
4 「奄美大島フェア」
- 盛況「ほこらしや音
5 芸能、600人の聴
町文化会館

カテゴリー

特集

地域

社会・経済

政治・行政

スポーツ

芸能・文化

奄美動植物

世界自然遺産

郷友会

子ども・教育

特集【コラム】

南海日日新聞からのお知らせ

自然・気象

速報・お知らせ